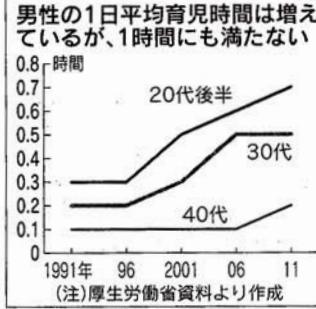


パタニティ・マタニティハウス建設の記事が
 日本経済新聞に掲載されました。

父親育児指南の宿泊施設

川越に 出産直後の母子と滞在

産科病院を運営する愛和グループ(埼玉県川越市)は2017年2月、父親の育児参加を後押しする宿泊施設を川越市に開設する。出産直後の母子と滞在し、専門家が育児や家事について指南する。父親の子育てへの意識を高め、産後の女性のストレスや疲労を軽減。育児しやすい家庭環境づくりを後押しする民間主体の取り組みだ。



開設する「パタニティ・マタニティハウス」には約30平方メートルの宿泊用の部屋を5室用意する。出産後、母子が1週間程度入院した後に父親も一緒に同施設に2泊3日で宿泊する。産後に家族がそろってくつろげる環境を整える(完成イメージ)

子育 2016

対象は第一子の出産後に限定する。病院グループが運営するが、医師や看護師は配置せず医療行為は行わない。産後の家族を対象とした民間の宿泊施設の位置づけだ。施設では保育士や社会福祉士などの資格を持つスタッフが常駐。ミルクの作り方や、風呂の入れ方など育児に関する基本的なノウハウのほか、産後の女性のケアについても学ぶ。宿泊後も自由に利用できる。

同グループは、父親の育児参加を促すことが産後うつにもなる育児放棄などを防ぐほか、第二子出産への意欲を高める効果もあるとみる。担当者は「母親への支援には限界があり、父親も育児の主役であることを意識してもらうことが重要だ」と強調する。

カラオケ店 仕事場に

東急電鉄 シェアオフィス展開
 東京急行電鉄は会社員が外先でシェアオフィスとして使えるように利用できる。利用者がオフィス事業で、カラオケ店「パセラ」をチェーン展開する「ニュートン」(東京・新宿)と提携した。東急のシェアオフィスは

県内初ホームドア導入

JR東、浦和駅と新都心駅

東日本旅客鉄道(JR東日本)は14日、浦和駅(さいたま市)とさいたま新都心駅(同)にホームドアを導入すると発表。2017年夏ごろの完成を目指す。埼玉県内のJR駅でホームドアを設置するのは初めて。線路への転落などの事故を防ぎ、安全性を高める狙いだ。

ホームドアを導入するのは、両駅の京浜東北線の上りと下りのホーム。7月下旬から着工し、1年程度の工事で完成する。ホームドアの重量に耐えられるようにホームの補強などを施す。終電から始発までの時間に工事するため、電車は通常通り運行する。事業費は2駅合計で14億円で、さいたま市も合計で1億2000万円を補助する。

浦和駅は乗降客数が多く、さいたま新都心は2020年の東京五輪で外国人観光客の増加が見込めるため、導入を決めた。県内で最も乗降客数が多い大宮駅はホームの構造などから難しい工事が必要になり、今回は見送った。

県内新設法人数1割増

昨年5887社、民間調査 卸売業目立つ

東京商工リサーチ埼玉支店がまとめた調査によると、2015年に埼玉県内で新設された法人数は、昨年5887社、民間調査は14年比1割増となる。卸売業の伸びが目立つ。同支店は「法人数の伸び率は全国より高く、圏央道などの事業環境の変化が評価されている」とみて、卸売業(27%)を引き離した。圏央道の整備で物流の利便性が高まったことが影響したとみられる。

埼玉県は全国で5番目の855社で、3位は越谷市の314社だった。

浴衣で「銀ぶら」夕涼み



東京・銀座の町会などでつくる全銀座会などは31日夕、浴衣姿で銀座を歩くイベント「ゆかたで銀ぶら」を開く。街歩きしながら夕涼みを楽しむ。普段は銀座に足を運ばない若者や家族連れなど、新たなファン作りにつなげる。

昨年の参加者は40万人を超えた

家族連れで楽しんで

歩行者天国になる中央通りを中心に打ち水や水像の着用や着替れした場合は、和太鼓演奏会などを展示、和太鼓演奏会などを直し方を紹介している。

計画。有名ブランドのバッグや食事券などが当たる抽選会や風鈴の絵付け体験など、浴衣や着物を着ている人のみ参加できるイベントも数多く用意する。

浴衣の着方が分からないために、浴衣を持参する人も多かった。イベント運営に参加している古屋敷彦一(松屋常務執行役員)は「和装も銀座も最初のハードルは高ければ無料で着付けする場もつけたい」と話している。